



Vol. **245**



屋島飛脚

「球道即人道」

昨年の私にとつてのビッグニュースは、私が見ています少年野球チーム「古高松ブルースターズ」が、夏の香川県選手権大会で25年ぶり(3回目)に優勝したことです。猛暑の中、約100チームの頂点に立つのは、そう簡単なことではありません。

決勝戦は、春の大会優勝の国分寺南部を1・0で倒しましたが、西日本放送(主催)で放映があり、四国新聞(主催)でもスポーツ欄トップで取り上げられ、その反響の大きさには思いの外びっくりしました。

その後の四国学童大会でも、高志クラブ(徳島)・新居浜ヤンキース(愛媛)を下し、決勝では高知代表の高須ZIONを4・3で退け四国一となりました。

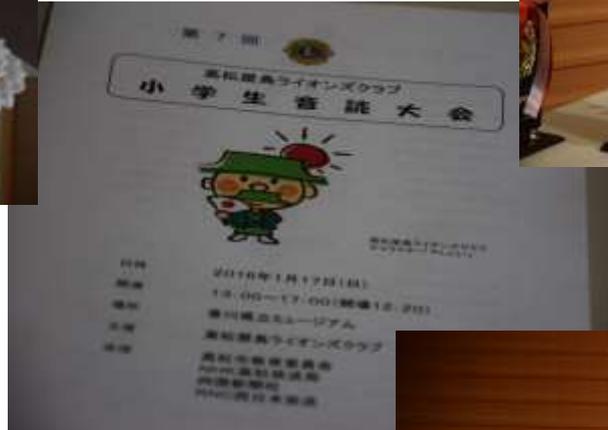
指導者としては、今年で18年目ですが、少子化と多種にわたる競技の普及により、野球少年は年々減っており、我がチームも、数年来六年生だけではチーム編成ができず、下級生を含めて戦わざるを得ない大変厳しい状況です。就任当初は何とか勝たしてやりたいとの一心で技術面ばかりを指導してましたが、やはり心の部分がしっかりしていないと勝てません。五体満足で生まれてきて、別にしなくてもいい野球が出来るのは決して当たり前のことではなく、家族はじめ多くの人達の支え(お金・時間・手間・熱い想いなど)のお陰。それなら一生懸命やらんとバチあたるとよ。本気でやると結果を出してお返しをしよう。結果で感謝の気持ちを表そうと言うのが私の理念です。こうした根っこの部分を心から理解できる選手は取り組み方が違うので、毎年チームの主力として活躍します。

挨拶、礼儀はもちろんチームに、仲間に迷惑をかけないという責任感「もう無理だ」と言う弱い自分に打ち克つ気力、試合(目標)に向けて目一杯準備する心等々、野球を通して学ぶことは数多くあります。何かと厳しかろう彼らの未来を「ナニクソ」と乗り越えて行くための、強い心と身体作りの一翼を担えればとの思いです。

野球のスコアボードは7回か9回で終わりですが、人生のスコアボードは80年以上続きます。さわやかな野球少年が人生の勝者となることを願いつつのボランティア18年目です。

高松屋島ライオンズクラブ第7回小学生音読大会 開催

2016年1月17日13:00～
香川県立ミュージアム



会長 岩崎康誠のご挨拶

司会 岡野朱里子
どうぞよろしく



第7回小学生音読大会が開催されました。
今回は、会場を香川県立ミュージアムに移して、本格的な大会になりました。
小学生も年々上手になり、びっくりするばかりです。
父兄の方、学校の先生もたくさん来場されました。
緊張した雰囲気でも音読する子供たちも大変だったでしょう。
来年もまた、かわいい子供たちの熱心な姿を、音読を聞けることを楽しみにしています。
高松屋島ライオンズクラブメンバーの皆様おつかれさまでした。



音読実行委員長
打ち合わせ中！
がんばるぞ！





審査員の先生と挨拶

高松屋島ライオンズクラブ 第7回小学生音読大会			
小学生の部		中学生の部	
学校名	学年	学校名	学年
1. 高松市立東中学校	3年 藤原 奏	1. 高松市立東中学校	3年 藤原 奏
2. 高松市立西中学校	3年 藤原 奏	2. 高松市立西中学校	3年 藤原 奏
3. 高松市立南中学校	3年 藤原 奏	3. 高松市立南中学校	3年 藤原 奏
4. 高松市立北中学校	3年 藤原 奏	4. 高松市立北中学校	3年 藤原 奏
5. 高松市立東小学校	3年 藤原 奏	5. 高松市立東小学校	3年 藤原 奏
6. 高松市立西小学校	3年 藤原 奏	6. 高松市立西小学校	3年 藤原 奏
7. 高松市立南小学校	3年 藤原 奏	7. 高松市立南小学校	3年 藤原 奏
8. 高松市立北小学校	3年 藤原 奏	8. 高松市立北小学校	3年 藤原 奏
9. 高松市立東小学校	3年 藤原 奏	9. 高松市立東小学校	3年 藤原 奏
10. 高松市立西小学校	3年 藤原 奏	10. 高松市立西小学校	3年 藤原 奏



広瀬先生による音読講習会



記念撮影と表彰式



高松屋島ライオンズクラブ

メンバーインタビュー

今回のインタビューは屋島ライオンズクラブ会長である相互タクシーの岩崎康誠さんです。満を持しての登場です。

■相互タクシーさんは全国にあるようですが？

岩崎： 相互タクシーの名前は各都道府県に1つはあります。昭和35年4月に開業したのですが、その当時、相互タクシーが日本で一番でした。後に分かれることになりましたが、大阪相互、堺相互、阪神相互、京都相互などが一つのグループでした。これにあやかって全国に相互の名前が広がったようです。ちなみに、つばめ、日の出、三和、第一なども同じような理由で全国にありますね。うちも日本一の相互にあやかって名付けたと父から聞いています。



■今、グループ全体でタクシーは何台くらいあるのでしょうか？

岩崎： グループ全体で53台です。内訳は、タクシー50台、ジャンボタクシー2台、福祉車両1台です。

■グループ化してよかったことはありますか？

岩崎： やっぱり仕事が増えたと思います。思わぬ仕事が入ってくるようにもなりました。しかし、タクシー業界全体でいうと、稼働率は低いんです。高松市内でも60%くらいして動いていません。

■そういえば、昔に比べて流しのタクシーをあまり見なくなったような気がしますね。

岩崎： そうですね。それだけ動いてないんでしょうね。お客様を運ぶと、当然戻らないといけませんから、必然的にそれが流しのタクシーになります。忙しいときは電話をもらっても車がなくて、行けないんだけど、走っている車が増えてくる。暇なときはタクシーが動かないから、走っていません。

■女性ドライバーは増えてきたのでしょうか？

岩崎： 以前は4名おりましたが、今は2名です。いろいろな理由からなかなか増えないですね。運輸業、特にタクシーは労働力不足なんです。なので、乗務員が働きやすいように勤務形態は会社ごとに変えています。例えば、ここ（相互）はきちんとした勤務形態ですが、錦町は夜間専門など、本人に合わせた勤務ができるようにしています。



■人手不足といえば、近年、自動運転が話題になってきましたね。

岩崎： もう既にいろいろな実証実験がはじまっているようです。いずれなるでしょうね。

■自動運転は事故の責任など、いろいろ課題はありますね。そういえば、事件や事故にはどのように備えていますか？

岩崎： 都会に比べてタクシー犯罪は少ないです。けれど、あるにはあります。事故が起きないかという不安は常にあります。そのようなこともあり、ドライブレコーダーはいち早く付けましたね。もう元は取りました（笑）。何度も助かりましたよ。事故があると、信号が赤だった、青だったなど、もめるんです。だから、前後両方付けています。また、ビデオを、運転手の教育にも活用しています。みんな目をキラキラさせて見えますよ。「誰やこれ？」って（笑）。ちなみに、バスやトラックの大きな事故があったことで、ここ数年、タクシー業界も指導は厳しくなっています。昨年暮れも高松市内全域で監査がありました。当たり前ですが、やるべきことはきちんとやっています。書類のチェックも厳しくなったので、資料はいつでも出せるように準備しています。

■カーナビは完備していますか？

岩崎： そうでもないです。うちはいち早くデジタル化しました。車にナビ配車というのがあるのですが、当時はまだ液晶が今ほどよくなかったので、あとから付けようということになりました。オプションで付けられるようにしています。配車室の方は顧客管理システムがあって、登録済みのお客様から電話がかかってくるから、ゼンリン地図画面にその場所が表示されます。タクシーの位置も地図上にわかるようになっているので、一番近くの車をすぐ手配できます。配車室からは車がどう動いているかが手に取るようにわかるので、道を1本間違っているとか、行き過ぎてるなど把握できます。しかし、逆に運転手はそれを当てにして、なかなか道を覚えな。近くまで行って、あとは聞けばいいと（苦笑）。

■そういえば、配車をお願いしようと電話をしたら、岩崎さんが出られたことがありました。

岩崎： ありますよ（笑）。電話の長いお客様もいるので、1人だと、ほかの電話がとれないんです。だから、配車係りが少ないときは、自分もやります。電話の長い人、行先から話し出したり、JRが動いているか、飛行機は飛んでるか聞いて来たりと様々です。いたずらもありますね。呼ばれて行ったらお客さんがいない。複数のタクシー会社が来てて、話してみたら、みんな同じ人を待っていたとか（笑）。忘れ物についても、面白いことがありました。車に300万円を忘れたと何度も電話がかかってきました。でも、どれだけ探しても出てこない。で、いろいろあったのですが、翌日、新聞を見たら、「正直タクシー」という見出しで郷東タクシーが記事になっていた（笑）。当時、うちの車は白に黒のラインが入っていたのですが、郷東タクシーは白に緑のラインでよく似ていました。せめて、見つかったという連絡はほしかったですね（笑）。



■最後に、会社を継がれた経緯などをお聞かせください。

岩崎： ご存知のとおり私は父から会社を引き継ぎました。帰ってきたのは昭和53年4月。大学3年の時に父が病気で倒れたんです。入退院を繰り返していたので、必然的に帰ることになりました。もちろん自分としては元々帰るつもりだったのですが、父は心配だったようで、大学生の自分にセドリックの一番よいのを買ってくれました。しかも、ガソリン入れ放題のカードも一緒に。それが戻って来いということだったらいいですね（笑）。帰った年は事務を覚えながら、夜は経理学校に通っていました。2年目には、タクシーの運転や事務をしながら、車の修理を学ぶため香川トヨタにも勤めました。夜は資格を取るため整備振興会の学校にも通いました。たいへんだったけど、楽しかったです。経営に携わるようになったのは3年目です。その後、労働組合ができて、いろいろな苦勞もしたけれど、一所懸命働きました。タクシー業界は24時間365日ですから、毎日会社に行っていました。今もそうですが（笑）。当時は、労働組合のある会社は、一生懸命勉強して、よく乗務員と話していたから、組合がない会社より優秀だったと思います。よく働き、規律もよく守られていました。労働者の方も組合のないところの労働者に負けるなという気持ちでやっていたから、売り上げも高かったし、賃金も高かった。そういう時代がありました。しかし、時代は変わり、バブルの頃は好き勝手にやるところの方がよくなりました。規制をかけたり、きちんとしている方が、やりにくくなって、自然と自由にできる会社に流れていく。そのころからずっと乗務員確保に追われてきました。廃業する会社が出てきたり、後継者がいなくてやめていったところもあります。どの会社も同じような悩みを持っているから、同業でも仲がいいんですよ（笑）。バブルといえば、その頃、銀行の会に入れてもらって、もう1つ何かしたいと思って、ロータリーに入ろうとしたら駄目だった（笑）。そんな話を小島さんと麻雀しながら話していたら、ライオンズに誘われたんです（笑）。ライオンズでは、いい先輩や仲間恵まれて、これまでやっていくことができました。屋島ライオンズに入って本当によかったです。

■お話を聞きして・・・

今回のインタビューでは、お父様から会社を引き継いでいく経緯や、仕事に没頭していたお話のほか、タクシー業界ならではの出来事や珍事(?)をたいへんユーモラスにお話いただきました。

紙面の都合上、残念ながら記事にできなかったものがいくつもあります。いずれも、とても興味深いものばかりですので、例会後などに、オフレコで聞いてみてはいかがでしょうか？



中央 会長 岩崎康誠を挟んで、L 中西俊介
PR 委員長 河野研一です。



会社のビルにはめ込んであった、
素敵なステンドグラス！



第1231回例会兼新年家族会開催

2016年1月7日(木) 18:30～
ロイヤルパークホテル高松



会長・幹事おそろいの
ブレザーにご満悦★



新春らしくお琴の演奏です。



RC 多田昌弘
RCA 藤原賢一
なかよしです！



全員で記念撮影・おめでとう！！



会長の
福笑い



幹事の
福笑い

高松屋島ライオンズクラブ 新会員オリエンテーション開催

2016年1月21日(木) 18:30～
三越

1. 開会
 2. 会長挨拶 会長 岩崎康誠
 3. 会員オリエンテーション
第一部 「ライオンズクラブの歴史と概要」
講師 4R・RC 多田昌弘
第二部 「知っておきたいライオンズ用語・他」)
講師 会員委員長 安西芳朗
第三部 「高松屋島ライオンズクラブの運営と組織」
講師 GMT・GLT・家族及び女性・会則・
プロトコール委員長 波多野敬四郎
第四部 「自由討議」
 4. 閉会
- 出席者名簿

受講者氏名	クラブ役員・委員氏名	講師氏名
白川真美江	岩崎康誠	多田昌弘
中西俊介	三宅 勝	安西芳朗
穴吹美香	田淵保己	波多野敬四郎
大澤佳加	池田 正	
溝淵博紀	高島 望	
佐々木恵美	河野研一	森 秀貴



新会員の皆さん ほぼ全員の出席で、熱心な勉強会になりました。クラブの未来に期待しています！！

編 集 後 記

まだまだ寒い日が続くが、暦の上ではもう春、チューリップの緑の葉が土の中から出てきた。しかし、春が近づいてきていると喜んでばかりもいられない。遅ればせながらと、2月に入ってインフルエンザの流行が始まった。堰を切ったような勢いで広まっている。マスク、うがい、手洗い等の予防に加えて、栄養をとり、体力をつけることが大切だと考える。

鍋料理と熱燗で乗り切ろう。

さあ、この次のACTは「ジュニアテニストーナメント」開催だ！

PR・情報・IT委員長 河野研一

高松屋島ライオンズクラブ

〒760-0041 高松市百間町9-15 TEL : 087-851-8451 FAX : 087-826-3585

2015年7月～2016年6月

■発行日：2016年2月18日

■会長：岩崎康誠 ■幹事：高島 望 ■会計：三好勝博 ■編集：PR大会参加ライオンズ情報委員会